

協同出資会社 (株) オービス (OPIS) のご紹介

弊社は、産学の協同出資により平成15年4月設立された、衛星測位 (GPS) の配信事業を主業務とするベンチャー企業 (株) オービス (OPIS) に出資しています。

(株) オービスは、事業の核となるGPS固定局「RTK-GPS固定システム: (株) トプコンのビジネス特許」を、北見市と国土地理院の助言、指導を得て市内の2カ所に構築しました。公共測量での使用が可能で、当時は国内3例目でした。

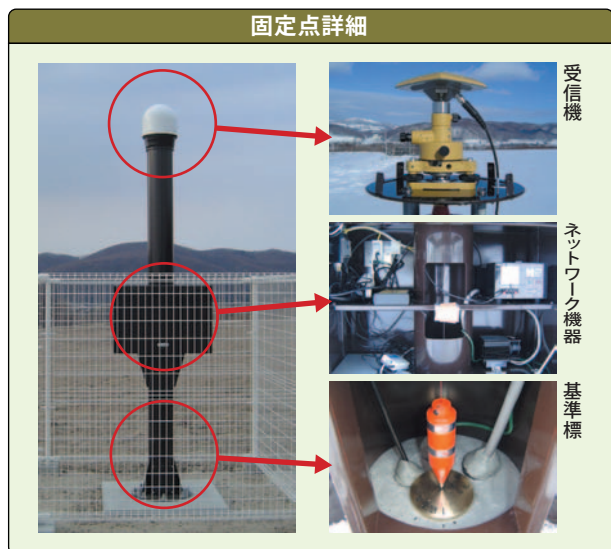


固定局 (小泉住民センター)



固定局 (モイスポーツワールド)

●頭の白い部分が受信機で中央にコントロールボックス、鉄柱の真下に公共基準点 (固定点) が埋設されています。



本来、自治体が整備する公共性を確保した測量基準点を、産学官の連携で構築した手法は「北見方式」とも呼ばれ、関係機関からも注目されています。また、海外からの視察や新聞、TV (NHK) からの取材もあり、その先進性に対する注目度がうかがえます。



●イタリアの測量機器会社「ジオトップ」のアレッシア・ボルツ部長ら3人が視察で来北。

近年、我が国は「国土建設」から「国土管理」へと建設行政が施策転換され、e-Japan (日本型 I T 社会) 実現に向け、GIS (地理情報システム) を国土情報基盤の重要なインフラと位置付け、その普及・推進を行っています。その基盤となる地図を流通させるためには、高精度な位置情報の取得が必須条件となっています。



概念図 (トプコン社の製品カタログより転載)

大学との連携

(株) オービスは、産学官が参加する「北見地域GIS・GPS研究会」の法人会員となっており、同研究会と北見工業大学が主催し、同大学施設 (SVBL: サテライトベンチャービジネスラボラトリー) で開催された、「情報技術まちづくりフェア～GPSと地理情報の活用をめざして～」に協賛し、展示・実演を行いました。また、学内でのGPS技術の講演なども依頼され実施しています。

大学との共同研究として、世界遺産に登録された知床峠をフィールドに「GPS・GIS利用高度除雪システム」の開発を進めています。ここ知床峠は、毎年春に数メートルの雪で覆われた道路を熟練オペレータの経験と勘に頼った除雪作業をしており、過去には人命に関わる重大事故も発生しています。近年、GPS・GISの技術発展に伴い、除雪機械を数センチの精度で視覚的に制御することが可能な環境が整ってきました。これらを活用した「支援システム」の開発は、山岳地における除雪作業の安全性のみならず、環境負荷の低減にも寄与するものです。



●位置出し作業



●知床峠での除雪の様子